

中国国慶節のご紹介

国慶節は中華人民共和国の建国記念日です。1949年10月1日、毛沢東が天安門において中華人民共和国の建国を宣言したことを記念して定められました。2011年10月1日、中国は建国62周年を迎えました。10月1日～7日までの1週間が秋の大型連休として国定の休日となり、北京の天安門広場には建国の日を祝う飾りつけがされました。真っ赤な大灯籠がカラリと晴れた秋の空に映え、早くから多くの人々が参観



に訪れていました。中国には、ほかにも旧正月の大型連休などがありますが、この国慶節のゴールデンウィークに限ってはとくに帰省する必要もなく、季節がら気候もよいので毎年絶好の旅行シーズンとなり、大変な人出となります。しかし、国慶節に伴い、10月1日～7日の間は、中国で現地輸入通関および配達業務が休業したため、大幅な配達遅延が発生する可能性があります。そのため、この時期中国向け船積みは、できるだけ国慶節以降に着くように手配することをお勧めいたします。

名古屋本社 李

情熱羅針盤

ジャパントラストかわら版



クイズ

【問題】

A、B、Cの三人の親友が、共同出資で宝くじを買ったところ、幸運にも一千万円が当たった。しかし分配にあたって、三人が三人とも、他の二人より少なくても嫌だし、もちろん三人以外には一円たりともやりたくない、ともめている。さて、三人で等分に分けることができるだろうか。



クイズの答え、お名前、プレゼントの送り先、本誌を読んだ感想を明記の上 ncustomer@jpntrust.co.jp までお送りください。正解された方には 3000 円の商品券を差し上げます。11月15日締め切り。

社員ブログ公開中！

ジャパントラスト営業マンのブログが始まっています。是非、弊社ホームページからのぞいてみてください。
<http://www.jpntrust.co.jp/>

海運豆知識

24時間ノンストップ航海の秘密

一度港を出た貨物船は、なにか致命的な故障でも起きない限り、目的地に着くまで止まらない。では、その船を動かす船員も、毎日24時間、不眠不休で働いているのだろうか。そんなことはもちろん不可能だ。船内の就労体制も、陸上と同じように8時間勤務が原則になっている。ただし勤務形態は、陸上とはだいぶ違っている。その辺の事情を、11名という世界でも最小の人員で運航されていたパイオニアシップを例にみてみよう。まず船の運航で最も重要なブリッジでの航海当直。これは運航士（航海士と機関士を兼ねる職員）と船舶技士各1名からなる3つのチームが4時間づつ交代で勤務する。つまり各チームは4時間働いて8時間休むというサイクルを1日2回繰り返すことになる。次にエンジンルーム。かつてはこちらも専任の当直があったが、近年の技術進歩でそれをブリッジで行うようになり、運航士の資格を持った1等機関士が朝8時から12時、13時から17時の8時間で、エンジンの点検・整備などを行っている。通信長の勤務は朝8時から12時、15時から17時、19時から21時、の都合8時間とやや変則的。司厨長の場合は、クルーの食事時間に合わせ朝6時半から9時、10時半から13時、15時から18時となっている。残るは船長と機関長だが、こちらは当直は無いが、24時間執務体制である。こうした船員の生活は、陸上で働くサラリーマンと比べればかなり変則的だが、突発事件がなければ、交代のサイクルが正確に繰り返されるため残業がない。この点では、サラリーマンの生活よりも健康的だといえるかもしれない。